

2019年(令和元年)5月14日(火) 13版

いはらき 魅力見つけ隊



藤田一美さん

つば市街地で絵本を中心とした書店「えほんやなすな」がある。主婦だった同市の藤田一美さん(55)が「絵本を通じて、子どもたちの心豊かな成長をお手伝いしたい」と2年前に開いた。目配りのきいた品ぞろえや温かい接客で、訪れた絵本好きを喜ばせている。

つば市の市街地で絵本を中心とした書店「えほんやなすな」がある。主婦だった同市の藤田一美さん(55)が「絵本を通じて、子どもたちの心豊かな成長をお手伝いしたい」と2年前に開いた。目配りのきいた品ぞろえや温かい接客で、訪れた絵本好きを喜ばせている。

子どもの成長願い 読み聞かせ



絵本好きの読む会「えほんやなすな」SERECA



絵本の読み聞かせを楽しむ子どもたち

藤田さんが大切にするのが「読み聞かせ」だ。「絵本は誰かに読んでもらひるもの。声を聞いて絵を『読む』自分で読むだけでは分からぬ面白さが氣づけます」だから藤田さんは、自ら積極的に声をかけようとしている。絵本を手にしている子どもたちはその絵本、何となく

なかありません」。

藤田さんは「この店が絵本や物語の世界を楽しむための入り口、子育てをしている人のオアシスになれば」と願っている。

住所は、つば市竹園2の4の10 村田ビル-105。電話 029・8228・5120(平日午後1時~5時)。木曜日、土曜日(いずれも午前11時~午後5時)と金曜日(午後1~5時)。【高田】

ひとくちメモ

京都出身の藤田さんが話すほんわりとした関西弁のようになり、店内には穏やかな空気が漂う。その空気感の中でも読み聞かせをしてあげる藤田さん。こんな書店は初めてだ。藤田さんは「ねばねばやんの小商い」で読み聞かせるけれど、「子どもたちのため」という想いが伝わった。

クス笑うたり。藤田さんは「私も遊んでいるんです」と笑顔で話す。

藤田さんは京都府出身。夫は転勤族で、2013年に2度目のつば市暮らしを始めた。子育てがほぼ終わり、読み聞かせの楽しさを親たちに伝える「絵本講師」の資格を

15年に取得した。といふが16年2月。頼っていた地元書店が閉店した。絵本講師の活動に力を入れ始めたばかりのことだった。藤田さんは「心のスイッチが入った」と振り返る。「地域の子どもたちのために、よい本を

紹介できる場所を作りたい」とも語った。

これまで、絵本に詳しい友人た

ちに本選びや店舗を手伝ってもらつた。店の本は約300冊から約3000冊が増え、各地から愛好者が訪れる。土浦市の北山良香さん(46)は「ソムリエみたいに『あなたにはどんな本はどう?』と聞めてくれる。そんな店はなかなかありません」。

藤田さんは「この店が絵本や物語の世界を楽しむためのオアシスになれば」と願っている。

つくば書店「えほんやなすな」

と思立ち、同年10月には開店にこぎつけた。店内は約40平方㍍、本棚は夫の2人で手作りした。

これまで、絵本を楽しむ人はねばねみ」と呼んでいる。イベントも活発だ。「えほんの井戸端」と名付けた渠までは、参加者が毎回のテーマに沿ったおすすめの本を持ち寄り紹介する。知らない本に出会えるし、本好き同士で話が弾む。抄訳ではない本来のクリム童話を聞く会のほか、読み聞かせや紙芝居などを楽しむ「ねほなし」もある。